

科目名	数学 I		学年	普通科		必/選	単位数
			1年	国文	普通	必修	3
				○	○		
学習目標	数学を活用して事象を論理的に考察する力, 事象の本質や他の事象との関係を認識し統合的・発展的に考察する力, 数学的な表現を用いて事象を簡潔・明瞭・的確に表現する力を養う。						
使用教材	教科書:「最新 数学 I」(数研出版) 自主教材(北大津高校数学科) 副教材:「パラレルノート数学 I」(数研出版)						
評価	評価法	定期考査、小テスト(定期)、パフォーマンス課題(発表・レポート)、提出物で評価する。					
	評価観点の趣旨	a	知識・技能	実社会に必要な数学の知識や技能を身に付けるようにする。			
		b	思考・判断・表現	論理的に考える力や数式を用いて事象を表現する力を身につけるようにする。			
		c	主体的に学習に取り組む態度	数学的活動の楽しさや数学のよさを実感して粘り強く考え、数学を生活や学習に生かそうとする態度、問題解決の過程を振り返って評価・改善しようとする態度を養う。			
上に示す観点に基づいて、各観点で評価し、学期末および学年末には観点別学習状況の評価(A、B、Cの3段階)および評定(1～5の5段階)にまとめます。							
期	月	時数	学習項目・ 単元	学習内容	評価方法		
					a	b	c
1 学 期	4 5 月	15	○数と式 ・式の展開 ・因数分解 ・実数 ・根号を含む ○式の計算	・公式などを利用して整式の展開や因数分解を能率よく計算できるようにする。 ・数の拡張に興味を持つとともに、有理数、無理数など実数の意味を理解し、平方根を含む式の計算や分母の有理化ができるようにする。また、絶対値の定義や性質について理解する。 課題学習 循環小数を分数で表す。	中間考査	中間考査	提出物
					小テスト	小テスト	授業への 取り組み 方
1 学 期	6 7 月	12 13	○1次不等式 ・不等式の性質 ・1次不等式の解き方 ・連立不等式 ○集合と命題 ・集合と部分集合 命題	・不等式の意味を理解し、1次不等式や連立不等式が解けるようにする。 ・集合に関する基本的な事項・用語を理解する。また、集合に関する記号の意味を理解し、適切に使えるようにする。 ・命題の意義を理解し、その真偽を判定する。	期末考査	期末考査	提出物
					小テスト	小テスト	授業への 取り組み 方
2 学 期	9 10	13	○2次関数とグラフ ・2次関数の最大・最小	・2次関数のグラフのかき、最大値や最小値を求める。 ・与えられた条件を満たす2次関数を求める。 ・解の公式を用いて2次方程式が解けるようにし、2	中間考査	中間考査	提出物

期	月	13	○2次方程式と2次不等式 ・	次方程式の実数解の個数と判別式の関係を理解する。 ・グラフを利用して、2次不等式の解を求める。 課題学習 バasketボールのパスカットに必要な高さを2次不等式で考察する	小テスト 提出課題	小テスト 提出課題	授業への 取り組み 方
2 学 期	11 12 月	13	○三角比 ・鋭角の三角比 ・三角比の 相互関係	・三角比(正弦・余弦・正接)の意味を理解し、それを利用した計量の基本的な性質について理解する。 ・三角比の相互関係を理解する。 ・鈍角や $0^\circ, 90^\circ, 180^\circ$ まで拡張した三角比の値を求められるようにする。	期末考査 小テスト 提出課題	期末考査 小テスト 提出課題	提出物 授業への 取り組み 方
3 学 期	1 2 3 月	13	○図形と計量 ・正弦定理 ・余弦定理 ・三角形の面積 ○データの分析 ・データの代表値 ・データの散らばり ・仮説検定	・正弦定理を利用して、辺の長さや角の大きさ、外接円の半径を求める。 ・余弦定理を用いて、辺の長さや角の大きさを求める。 ・三角比を用いて三角形の面積を求める。 ・資料の特徴をつかむためのデータの整理について理解する。またデータの特徴を表す数値について理解する。 ・データの分布を表す、四分位数、四分位偏差、箱ひげ図を理解する。また、2つの変量の相関関係について理解するとともに、相関関係を表す数としての相関係数を理解する。 ・仮説検定の考え方を理解する。 課題学習 統計的探求プロセスについて	学年末 考査 小テスト 提出課題	学年末 考査 小テスト 提出課題	提出物 授業への 取り組み 方
担当者からのメッセージ (学習方法など)							
「講義」+「問題演習」+「補足説明」を基本的な形式とします。演習の時間を確保することにより、基礎・基本の習得を目指します。しっかり内容を復習して、不明な事項がないように心がけてください。							